

地球温暖化対策計画に記載した事項の実施状況

実施期間		平成23年度					
温室効果ガスの排出の抑制等のために実施した措置の内容		L-2 メインプロローのインバータの強化による電力使用量削。 海水ポンプのインバータの稼働率増による電力使用量削減。					
温室効果ガスの排出の量の削減実績	温室効果ガスの排出の抑制	区 分	基準年度 (平成22年度)	目標年度 (平成25年度)	対基準 年度比 (%)	実施年度 (平成23年度)	対基準 年度比 (%)
		<input checked="" type="checkbox"/> 温室効果ガス 排出量 A	(二酸化炭素換算(t)) 321,123t - CO ₂ ①	(二酸化炭素換算(t)) 319,600t - CO ₂	99.5	(二酸化炭素換算(t)) 358,131t - CO ₂ ②	111.5
		<input type="checkbox"/> 原単位排出量 A/B					
		温室効果ガス排出量と 密接な関係を持つ値 B					
	温室効果ガスの吸収等	区 分	実施年度(平成 年度)				
			取組量等		二酸化炭素換算(t) ③		
		<input type="checkbox"/> 森林の整備等	(整備面積等)	ha	(吸収量)	t - CO ₂	
	<input type="checkbox"/> グリーン電力 の購入	(購入量)	千 kWh	(削減量)	t - CO ₂		
	削減量	基準年度 ① (平成22年度)	実施年度 (②-③) (平成23年度)		対基準年度比 (%)		
		321,123t - CO ₂	358,131t - CO ₂		111.5		
特記事項		中国電力のCO ₂ 排出係数について、平成22年度および目標年度平成25年度はCO ₂ 排出係数0.628kg-CO ₂ /kwhを使用したが、実施年度平成23年度はエネルギー指定工場定期報告書に使用する報告用係数0.728kg-CO ₂ /kwhを使用した。0.628kg-CO ₂ /kwhを使用した場合、22,000t-CO ₂ 減の336,131t-CO ₂ となり、対基準年度比は104.7%となる。					
備考		平成22年度は、2年に一度の炉修・大定修を行い、18日間操業を停止した。一方、平成23年度は炉修・大定修はなく、操業日数が多かったため燃料の使用量が増加しCO ₂ の発生量が増加した。					

(注)

- 「基準年度」欄及び「目標年度」欄には、地球温暖化対策計画書（当該計画書を変更した場合にあっては、変更後の地球温暖化対策計画書）に記入した数値を転記すること。
- 「特記事項」欄には、「温室効果ガスの排出の抑制等のために実施した措置の内容」欄に記入したもののほかに、地球温暖化の防止のために取り組んだこと等を記入すること。
- 「備考」欄については、実施年度の数値が基準年度の数値よりも増加した理由（計画期間の最終年度に係る報告にあっては、削減目標が達成できなかった理由を含む。）を記入すること。